

平成20年度 決算報告書

国立大学法人 京都工芸繊維大学

(単位:百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	5,013	5,399	386	(注1)
施設整備費補助金	2,246	2,313	67	(注2)
船舶建造費補助金	—	—	—	
施設整備資金貸付金償還時補助金	—	—	—	
補助金等収入	58	61	3	(注3)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	27	27	0	
自己収入	2,400	2,396	△ 4	
授業料、入学金及び検定料収入	2,349	2,330	△ 19	(注4)
附属病院収入	—	—	—	
財産処分収入	—	—	—	
雑収入	51	66	15	(注5)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,155	788	△ 367	(注6)
引当金取崩	—	—	—	
長期借入金	—	—	—	
貸付回収金	—	—	—	
承継剰余金	—	—	—	
旧法人承継積立金	—	—	—	
目的積立金取崩	—	554	554	(注7)
計	10,899	11,538	639	
支出				
業務費	5,750	5,812	62	(注8)
教育研究経費	5,750	5,812	62	
診療経費	—	—	—	
一般管理費	1,663	1,672	9	(注9)
施設整備費	2,273	2,340	67	(注10)
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	58	61	3	(注11)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,155	782	△ 373	(注12)
貸付金	—	—	—	
長期借入金償還金	—	—	—	
国立大学財務・経営センター施設費納付金	—	—	—	
計	10,899	10,667	△ 232	
収入-支出	0	871	871	

○予算と決算の差異について

- (注1)運営費交付金については、前年度から繰り越した額のうち使用額(397百万円)が当初の予定より多かったことに伴い、予算額に比して決算額が386百万円多額となっています。
- (注2)施設整備費補助金については、平成20年度補正予算によりバリアフリー対策事業経費、耐震対策事業経費が交付されたことに伴い、予算額に比して決算額が67百万円多額となっています。
- (注3)補助金等収入については、補助金獲得に取り組んだ結果、予算段階では予定していなかった大学改革推進等補助金が交付されたことに伴い、予算額に比して決算額が3百万円多額となっています。
- (注4)授業料、入学料及び検定料収入については、当初の見込より主として入学者数が少なかったことに伴い、予算額に比して決算額が19百万円少額となっています。
- (注5)雑収入については、予算段階では予定していなかった火災保険金を受け取ったことや科学技術振興機構による特許出願支援等が当初の予定より多かったこと等に伴い、予算額に比して決算額が15百万円多額となっています。

- (注6)産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、前年度から繰り越した額のうち使用額(3百万円)が当初の予定より少なかったことに伴い、予算額に比して決算額が367百万円少額となっています。
- 寄附金収入等については、当初の予定より18百万円の増収となっていますが、産学連携等収入については、当初の予定より218百万円の減収となっています。
- (注7)目的積立金取崩については、当初予定していた教育研究環境整備事業の計画変更等により、目的積立金の取崩が必要となったため、予算額に比して決算額が554百万円多額となっています。
- (注8)業務費については、(注7)に示した理由により増加しましたが、教員の退職者が当初の予定より少なかったこと及び業務実施にあたり経費の節減に努めたこと等により、予算額に比して決算額が62百万円多額となっています。
- (注9)一般管理費については、(注7)に示した理由及び職員の退職者が当初の予定より多かったことにより増加しましたが、業務実施にあたり経費の節減に努めたこと等により、予算額に比して決算額が9百万円多額となっています。
- (注10)(注2)に示した理由により、予算額に比して決算額が67百万円多額となっています。
- (注11)(注3)に示した理由により、予算額に比して決算額が3百万円多額となっています。
- (注12)(注6)に示した理由等により、予算額に比して決算額が373百万円少額となっています。